



1. 勝川夏樹《Fascination with magnification II》（部分）2018 年、作家蔵

ミクロコスモス あらたな交流のこころみ

展覧会名	ミクロコスモス：あらたな交流のこころみ
会場	展示室 1・2（富山市ガラス美術館 2 階）
展覧会期	2020 年 2 月 29 日（土）— 9 月 22 日（火・祝）※会期を延長しました。
開館時間	午前 9 時 30 分～午後 6 時（入場は閉場の 30 分前まで） ※当面は金・土曜日も午後 6 時までとなります。
閉場日	第 1、第 3 水曜日（ただし 9 月 2 日（水）は開場、9 月 9 日（水）は閉場）
観覧料	一般 700 円（500 円）/大学生 500 円（300 円） ●（ ）内は 20 名以上の団体 ● 高校生以下は無料 ● 本展観覧券で常設展も観覧可
主催	富山市ガラス美術館（富山市西町 5 番 1 号）
後援	北日本新聞社、富山新聞社、北日本放送、チューリップテレビ、富山テレビ放送

概要

本展覧会では、身の回りの世界と自分自身との関係について熟考しながら、ガラスを用いて表現を行う7人の作家をご紹介します。作家たちは身近な植物や生き物、あるいはそれぞれの表現素材そのものの中に、力強さや美しさ、生命感を見いだしながら作品を制作しています。自分とは異なる存在や物質と出会い、それらの成り立ちや性質に寄り添いながら、制作行為の中で自らの感覚を重ね合わせていくこと。こうした、自分以外の存在との交流のこころみの中で、作家たちは小宇宙とも言うべき繊細で複雑な作品世界を構築しています。豊かな想像力をもって周囲の世界と関わり合うことの重要性を提示する、ガラスと表現のあらたな様相をお楽しみください。

出品作家について

- いとうまちこ 伊藤真知子：1979年沖縄県生まれ、現在富山県在住



- 2. 伊藤真知子《Life form II》
2019年、作家蔵

伊藤はグラスファイバーと呼ばれる極めて細い繊維状のガラスを編む、織る、束ねるなどの方法によって作品を作り出している。「Life form」シリーズは、編むという規則性のある行為と、植物などが成長、増殖していく過程で見せる法則との間に共通点を見いだしたことから制作された。自身の出身地である沖縄のサンゴや、現在育てている多肉植物など、身近に存在する生き物の姿を観察する中での発見が制作のヒントになっているという。小さな生命が少しずつ成長していく、そのエネルギーを感じさせるような表現となっている。

- いのやまきこ 猪野屋牧子：1975年北海道生まれ、現在石川県在住



- 3. 猪野屋牧子《Daydream of Butterfly》
2015年、富山市ガラス美術館所蔵
撮影：末正真礼生

猪野屋は色鮮やかで豊かな装飾性を持つオブジェやジュエリーを制作している。花や蔦、蝶や鳥といったモチーフは細かなドットによって彩られ、装飾の中にはタコの足や目玉などのグロテスクとも言えるモチーフも現れる。炎の中でガラスを操り、細やかで複雑なかたちを作り上げていくバーナーワークによって、作家は自らの美意識のもと多様なモチーフを作り上げる。そしてそれらを過剰なほどに組み合わせ、美しさとグロテスクさが共存するユニークな造形を実現させている。

- かつかわなつき 勝川夏樹：1991年大阪府生まれ、現在茨城県在住



4. 勝川夏樹
《Fascination with magnification II》
2018年、作家蔵

粉ガラスから作ったペーストを、粘土のように用いてかたちを作り上げ、その後焼成する独自の方法「モデリング・パート・ド・ヴェール」によって制作を行っている。モチーフとなっているのは、顕微鏡の中の極めて小さな生き物の世界である。《Fascination with magnification II》では白く柔らかな質感を見せる鱗状のかたちが、周囲を知覚するかのように表面に立ち上がり、捉えどころのない奇妙な生命感を見る者に印象付ける。

- こそがわるな 小曾川瑠那：1978年愛知県生まれ、現在岐阜県在住



5. 小曾川瑠那《雨と陽のはざまに 2018》
2018年、作家蔵

2012年の飛騨高山への移住を契機に、小曾川は社会が抱える様々な問題について深く考えるようになったという。その中で、「命の問い」をテーマに制作を続けているのが「深い静寂」や「雨と陽のはざまに」といった作品シリーズである。黒や青、紫のガラスによって作られた、光を透すほどに薄く繊細な花の姿は、生きるほどに死に向かっていく命の儚さや、ひとつの命が持つ輝きを示唆している。既存の社会制度や価値観の中において、ささやかで見過ごされがちなひとつの命が持つ価値に光を当てること、その重要性を小曾川の作品は鑑賞者に語りかけている。

- ごんじょうまふね 言上真舟：1984年福島県生まれ、現在スウェーデン在住



6. 言上真舟《Scent of mist》
2017年、作家蔵
撮影：カリン・ビョーククイスト

言上はガラスの破片を繋ぎ合わせ、ドレスやガウン、ランジェリー、ハイヒールなど女性的なモチーフの制作に取り組んできた。この方法は、作家がスウェーデンに渡ったばかりの頃、言葉の問題から材料の発注が出来ない中で、捨てられたガラスの破片を見つけたことから始まったという。ドレスや靴といったモチーフは、華やかさや美しさのみならず、喜び、憧れ、欲求、虚栄心、執着などの様々な感情を想起させる。美しさと壊れやすさを併せ持つガラスという素材が、こうした複雑な感情と重なり合い、それらを抱えながら生きる人間のあり様を示している。

- たにくちよしみ
●谷口 嘉：1978年神奈川県生まれ、現在神奈川県在住



7. 谷口嘉《Untitled》2018年、作家蔵
撮影：末正真礼生

極めて簡潔なガラスのパーツを組み合わせ、谷口は空間の中に繊細なインスタレーションを作り出している。今回の2つのインスタレーションでは、小さく透明なガラスのパーツが壁面に広がり、それぞれの位置や傾きのわずかなずれが、不規則な光の反射と心地よい均衡を生み出している。こうした作品は、ガラスという素材そのものをいかに見せるかという、作家の思索の過程がかたちとなったものである。また、鑑賞者自身の記憶や経験から浮かび上がる、ガラスに対するイメージと作品との呼応関係も谷口の作品の重要な要素となっている。

- わたなべち えみ
●渡辺知恵美：1989年富山県生まれ、現在山口県在住



8. 渡辺知恵美《清流の燈》
2018年、作家蔵
撮影：末正真礼生

渡辺は透明なガラスの造形の中に、緻密な模様を重層的に描き出している。板ガラスに細かな線を丹念に彫刻し、それを複数枚積層するというプロセスの中で、作家は平面と立体が「限りなく交わる表現」を追求している。作品の中に描かれる小さな花や葉のかたちはニワナナカマドという植物の姿を参照しており、作品の造形は水の流れを表しているという。《清流の燈》では花や葉とともに魚の姿が描かれており、水中と地上の光景が重なり合う幻想的な世界が現れている。

富山市ガラス美術館公式 SNS

本展覧会の最新情報は美術館公式インスタグラム・フェイスブックでも発信しています。

- アカウント ID：@toyamaglassartmuseum
- 展覧会ハッシュタグ：#ミクロコスモス展 #microcosmos_toyama



Instagram



facebook

● 広報用画像の貸出しについて

1p-5p の画像 1-14 を広報用に貸出いたします。

ご希望の方は、6p の画像貸出し申請書の使用条件をご確認いただき

EメールかFAXにて富山市ガラス美術館広報担当へ申請書をお送りください。

E-mail : bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp FAX : 076-461-3310

9.



10.



11.



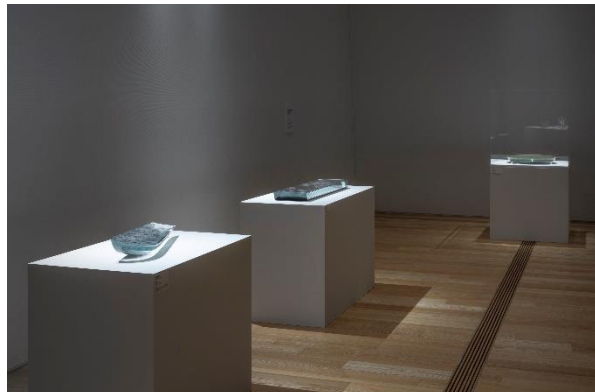
12.



13.



14.



※9～14：会場風景、撮影：末正真礼生

年 月 日

(宛先) 富山市ガラス美術館長

担当者： _____
T e l : _____ F a x : _____
E - m a i l : _____
住所： _____
団体名： _____

富山市ガラス美術館 画像貸し出し申請書

次のとおり、掲載用素材として企画展

「ミクロコスモス：あらたな交流のこころみ」の画像を申し込みます。

1. 掲載（放映）媒体名： _____

2. 媒体種別：TV 新聞 雑誌 フリーペーパー 電子書籍 WEB サイト 携帯媒体
その他（ _____ ）

3. 掲載の趣旨

別紙のとおり（媒体資料を添付してください） _____

4. 掲載（放映）日時： _____

5. ご希望の画像番号： _____

○作品に文字やほかのイメージを重ねることはできません。キャプション等の文字が写真にかぶらないようご配慮をお願いします。また、縦横比の変更やトリミングはご遠慮ください。

○作品掲出には指定するキャプションを必ず入れてください。

○作品画像の2次使用はご遠慮ください。

※同一記事の再掲載や再放送等については再申請が必要となります。また、画像が使用できる期間は展覧会期間内のみとなります。

○商品のPR等の商業利用に関しては画像の提供は出来ません。

○校正ゲラの段階で情報の確認をさせていただきます。

○記事が掲載された場合はDVD、掲載紙、誌を一部ご寄贈いただきますようお願いします。

申請書送付先：富山市ガラス美術館広報担当 E-mail: bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Fax : 076-461-3310